

- 唐津地区の準高冷地（鳥巢地区）で育成された本品種は、優れた商品性を備えながらも、生産地、出荷期が限られ、多数の品種の中に埋もれてきた。
- このため、**産地の組織化支援**、関係機関と連携した**平坦地栽培の導入や作型開発**、ブランド化に向けた**実需者とのマッチング活動**に取り組んだ。
- その結果、**「鳥巢の白蕾」研究会が発足**、**実需ニーズに対応した出荷期の拡大**、**生産量の増加**など産地基盤の強化が図られた。

## 具体的な成果

### 1 「鳥巢の白蕾」研究会が発足

- 平坦地への作付推進、積極的なマーケティング活動を開始

平坦地生産者（毎年1名増）の参加により活動が活性化

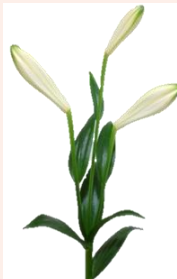
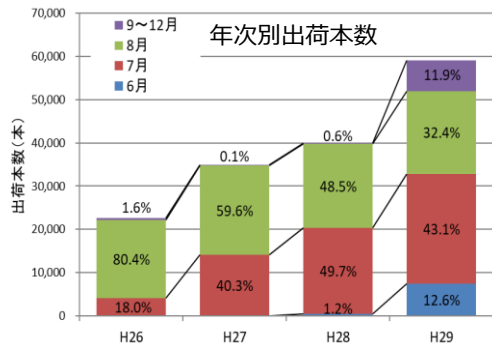


### 2 出荷期間の拡大

- 平坦地作型の導入・新作型の開発
- ・**平坦地での6～7月上旬出荷が可能**となる  
→ 準高冷地とのリレー出荷を開始
- ・ 準高冷地2度切り栽培の採用  
→ **10～11月出荷作型開発に成功**

(H26) (H29)

- 出荷期間： 3ヶ月 → **6ヶ月**
- 作付面積： 11.0a → **31.6a (287%)**
- 出荷本数： 22.6千本 → **59.0千本 (262%)**
- 販売額： 2,543千円 → **6,601千円 (260%)**



オリジナルユリ  
「鳥巢の白蕾」

### 3 実需ニーズへの対応によるブランド化

- 会員の積極的な市場調査等への参加  
→ 市場要望に対応した作型分散等、**マーケットインの視点による生産活動が定着**

## 普及指導員の活動

平成26年

- **平坦地（厳木地区）での試験導入を提案**
- 優良系統の選抜を支援

平成27年

- **研究会組織発足に向け、生産者代表、JAと協議**を重ね、方向性を決定
- 活動強化のため「産地ブランド発掘事業」（国庫事業）に応募、採択（H28～29）
- 平坦地作型の実証、市場評価の実施

平成28年～29年

- 佐城・杵島普及センターと連携の下、**江北地区、大和地区で栽培開始**（H30年みやき町1名が参加予定）
- 農試センター協力の下、電照を用いた開花促進技術の実証を行い、新作型に導入
- 市場担当者等を招き**産地交流会、ブランド化検討会**を開催  
また、**生産者と市場調査、小売店アンケート等を実施**し、実需ニーズの把握に努めた

## 普及指導員だからできたこと

- ・ **他普及センター、農試センターと役割分担、情報共有**を行いながら、それぞれの専門知識を活かし、新作型等を実現
- ・ **実需ニーズの重要性を提案**し続け、**ブランド化への取組を定着**させることが出来た

佐賀県

オリジナルユリ「鳥巢の白蕾」の産地強化

活動期間：平成 26～29 年度

## 1. 取組の背景

佐賀県唐津市浜玉町の準高冷地にあたる鳥巢地区において、生産者の手により育成されたシンテッポウユリ品種「鳥巢の白蕾」（とりすのはくらい）は、「仏花」として利用される従来品種に比べ、純白の花蕾、たおやかな草姿から、「洋花」として幅広い用途が期待でき、日持ち（鑑賞期間）の長さの点からも、市場での優位性が高いと考えられる。

しかしながら、これまで、その開花特性等は明らかにされておらず、栽培期間（出荷期間）や生産地に限られ、普及してこなかった。

そこで、生産農家、J Aと研究会組織の立ち上げを図り、平坦地での栽培技術や新たな作型の開発等、技術的課題を克服するとともに、実需者と結びつき、「鳥巢の白蕾」ブランドを作り込むことで、新たな需要を喚起し、本品種の定着、産地強化に取り組んだ。

## 2. 活動内容（詳細）

### 1）平成 26 年

これまで準高冷地（鳥巢地区）のみで栽培されていた本品種を、平坦地域（唐津市巖木地区）において試験導入し、準高冷地の出荷期間 7 月中旬～9 月上旬より早い 5～6 月出荷作型の開発に取り組んだ。

### 2）平成 27 年

研究会組織の発足に向け、生産者代表、J A、県関係機関と検討を行い、平坦地での作付拡大、実需者との連携等のマーケティング活動等、産地の方向性について検討を行った。

また、平成 26 年度に行った平坦地域での栽培試験の結果、5～6 月出荷が十分可能であることがわかり、他普及センターと連携しつつ、平坦地での新規作付者の掘り起こしを行った。

### 3）平成 28～29 年

県内の佐城農業改良普及センター、杵島農業改良普及センターと協力し、それぞれの管内で平坦地での栽培を本格的に開始した。

また、出荷作型を拡大するため、農業試験研究センターの協力のもと、電照を用いた開花調節技術の実証を行い、準高冷地、平坦地域での新作型に導入した。

また、H28～29 年度は、活動強化のため「産地ブランド発掘事業」の採択を受け、市場担当者等を招いての産地交流会、ブランド化検討会を開催する

とともに、生産者と市場調査、小売店アンケート等を実施し、実需ニーズの把握に努めた。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### 1) 「鳥巢の白蕾研究会」が発足

平成 28 年度に研究会組織が発足でき、平坦地への作付け推進や生産者参加型のマーケティング活動を組織として行うこととなった。

現在、毎年 1～2 名の平坦地生産者の加入により、活動が活性化している。

#### 2) 出荷期間の拡大

平坦地での 6～7 月出荷が可能となったことで、準高冷地と平坦地のリレー出荷ができるようになり、出荷期間は従来の 3 ヶ月弱から 7 ヶ月（6～12 月）へと長期出荷が実現した。

また、平坦地域の参加、新たな作型の開発により出荷本数、販売額は、取り組み前（H26 年度）の約 260%となった。

#### 3) 実需ニーズへの対応によるブランド化

研究会員が積極的に市場調査等のマーケティング活動に取り組み、市場担当者や仲卸等実需者のニーズ、意見を生産現場に反映させるマーケットインの視点による生産活動が研究会に定着した。

### 4. 農家等からの評価・コメント（「鳥巢の白蕾」研究会）

平坦地での栽培、出荷が始まったことで、市場から求められていた出荷期間の延長、新たな市場の開拓ができ鳥巢地区、平坦地ともに相乗効果が得られた。

### 5. 普及指導員のコメント

（唐津農林事務所東松浦農業改良普及センター 主査 千綿 龍志）

普及センターならではの視点で、平坦地への産地拡大を提案し、生産者に受け入れていただいたところから取り組みがスタートした。

他普及センター、農業試験研究センター等、多くの関係機関の協力を得られたことが成果につながったと感じている。

### 6. 現状・今後の展開等

平成 30 年度から、平坦地区で 2 名の新規栽培者が加わり、順調に出荷数量も増加している。

現在、杵島農業改良普及センターを中心に更なる出荷期拡大に向けた作型開発が行われており、周年出荷体制の構築が期待される。



写真1 「鳥巢の白薔研究会」

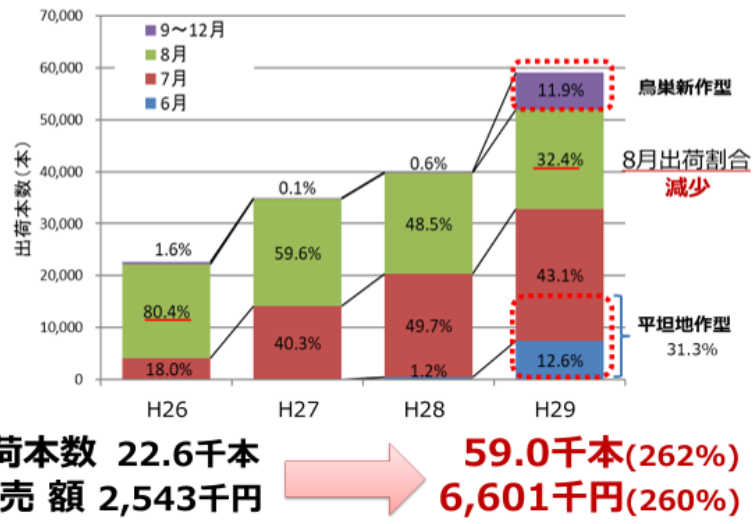


図1 年次別出荷本数の推移



産地交流会



市場調査



小売店アンケート

写真2 マーケティング活動の実施